令和5年度

事業計画書

社会福祉法人 みその福社会

特別養護老人ホーム ケアタウン成増

デイサービスセンター ケアタウン成増

ヘルパーステーション ケアタウン成増

居宅介護支援事業所 ケアタウン成増

成増地域包括支援センター

目 次

1. 社会福祉法人みその福祉会			
(1) 事業内容	1		
(2) 法人経営理念	1		
(3) 法人運営理念	1		
(4) 第七次中期計画			
(期間 令和4年4月～令和7年3月)	2	～	7
① 法人全体			
② 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム） 短期入所生活介護（ショートステイ）			
③ 通所介護（デイサービス）			
④ 訪問介護（ホームヘルプ）			
⑤ 居宅介護支援事業			
⑥ 地域包括支援センター（介護予防支援事業）			
2. 法人全体（単年度）			
(1) 食事・栄養管理	7	～	8
(2) 人材育成	8		
(3) 防災対策計画	9	～	10
(4) 委員会活動（法人全体）	10	～	12
(5) ワーキングチーム（法人全体）	12	～	13
(6) 法人行事計画	13	～	14
3. 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム） 短期入所生活介護（ショートステイ）			
(1) 令和5年度計画策定にあたり	15		
(2) 人員配置	16		
(3) 年間事業計画	16	～	19
(4) 日課表	20		
4. 通所介護（デイサービス）			
(1) 令和5年度計画策定にあたり	21	～	22
(2) 研修計画	22		
(3) 会議及び委員会活動	22		
(4) 計画人員配置	23		
(5) 感染症や災害への対応力強化	23		

5. 訪問介護（ホームヘルプ）	
（1）令和5年度計画策定にあたり	23 ～ 25
（2）職員研修	25
（3）職員の配置計画	25
6. 居宅介護支援事業	
（1）令和5年度計画策定にあたり	25
（2）重点項目	25 ～ 26
7. 地域包括支援センター（介護予防支援事業）	
（1）令和5年度計画策定にあたり	26
（2）A I P実現のために	26 ～ 27

1. 社会福祉法人みその福祉会

(1) 事業内容

①介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

常時介護が必要（介護1～介護5）で、ご家庭での生活が困難な方が長期入所されます。

入浴、排泄、食事等の介護や日常生活上のお世話及び日常生活における機能訓練を行います。

定員 80名

②短期入所生活介護（ショートステイ） *介護予防を含む

特別養護老人ホームに短期入所し、入浴、排泄、食事等の介護や日常生活上のお世話及び日常生活における機能訓練を行います。

定員 4名

③通所介護（デイサービス） *介護予防を含む

老人デイサービスセンターに通って、施設において入浴、食事の提供等日常生活上のお世話及び日常生活における機能訓練を行います。

一般型 50名

④訪問介護（ホームヘルプ） *介護予防を含む

ホームヘルパーが居宅を訪問して、入浴、排泄、食事等の介護や日常生活上のお世話をします。

⑤居宅介護支援事業

介護の知識を幅広くもった介護支援専門員（ケアマネージャー）が、ご利用者の心身の状況や希望をうかがい、要介護度に応じた適切な居宅サービス計画（ケアプラン）を作成します。

⑥地域包括支援センター

地域の高齢者の心身の健康の維持、保健・福祉・医療の向上、生活の安定のために必要な援助、支援を包括的にします。

(2) 法人経営理念

- 経営資源を最有効活用し、確固たる経営基盤を確立します。
- 健全な経営を目指し、事業経営の透明性を確保します。

(3) 法人運営理念

- 利用者様の尊厳のある生活を支援します。
- 利用者様本位のサービスを提供します。
- 利用者様に家庭的でゆとりのあるサービスを利用して頂きます。
- 利用者様一人ひとりに合った質の高いサービスを提供します。
- 常に地域に開かれ、地域福祉の中心的存在であります。

(4) 第七次中期計画（期間 令和4年4月～令和7年3月）

①中期計画策定上の目標

ア 「地域共生社会」の実現のために

地域で高齢者、児童、障がいのある方など、すべての方々にとって、暮らしやすいまちづくりのために、地域でのネットワークの構築を主体的に行う。当法人の多職種が主体的に地域に何が出来るかを考え、そして地域と協働して実践する。

イ 社会福祉法人としての公益性を高める

現行の介護保険制度や地域包括支援センターにおける受託内容にかかわらず、現行制度の狭間にある方々や児童、障がいなどの異分野が複合した案件も解決に向けた調整能力を高める努力を行うことが社会福祉法人の一員としての使命と理解する。

ウ 魅力ある職場のために

社会福祉法人としてシニア世代、外国人や障がいのある方々が働くことが出来るフィールド作りを積極的に行う。当法人職員にはワークライフバランスを実践するために、更なる業務の標準化、効率化を行う。またチームケアタウンとして職員同士が助け合う風土により、更に働きやすい環境を構築する。

エ 新しい時代の情報発信・共有・活用のあり方

ウィズコロナ及びアフターコロナを見据え、ICTを積極的に活用する。当法人への入職希望者を始め、地域学生による高齢者福祉についての理解や、ご利用者、ご家族、地域住民などすべての方々によって有益な情報を積極的に発信する。当法人内での業務を始め、地域での多職種連携や支え合い活動など様々な場面でクラウド情報や新しいツールを使った改善を検討する。

オ 感染症対策及び防災体制の強化

ウィズコロナ及びアフターコロナに備え、新型コロナウイルス感染症対策をその時の感染状況や新しい知識により確立する。BCPの見直しや防災関係の訓練を積極的に実施し、大型の発電装置を備えた「福祉避難所」として積極的に地域住民や板橋区危機管理部と連携する。

②法人全体

ア 職員教育

- ・ワーキングチームを中心とした職員の専門性向上のための研修体制の構築
- ・介護技術レベル評価の実施（法人内職務レベル制度の運用）
- ・外部講師による講義・勉強会の開催（社会人のとしてのマナー・基礎研修等）
- ・入職者のための介護スキル基礎教材、業務マニュアルの更新および共有
- ・リーダー・中堅職員向けの研修を開催（チーム力の向上）
- ・法人内事業間での交換研修の実施
- ・他法人との交換研修の実施（障害者支援事業等）

イ 人材確保

- ・区内の大学短期部及び福祉専門学校と連携を強化し、当施設にて長期実習後（介護福祉士）に入職できる機会づくり
- ・異業種からの転職者の受入体制の構築
- ・介護サポート業務の切り出し、未経験者受入れ体制の構築

- ・外国人労働者受入れのための体制づくり
- ・介護職員初任者研修、実務者研修の定期的な開催による新規人材確保
- ・学生のインターンシップ（有給）の実施
- ・合同就職説明会等への参加

ウ 職場環境の充実

- ・福利厚生の実施
- ・ストレスマネジメントの実施
- ・職員間でのイベントの充実（職員作品コンクール・卓球大会等）
- ・有給休暇取得等リフレッシュ休暇の充実
- ・勤続年数等を考慮した食事会等の実施

エ ワーキングチーム

- ・中堅職員を中心に、新人職員、リーダー層職員よりメンバーを選出し、部署合同のワーキングチームを編成。法人の重点課題に取り組む
 - ①職員育成強化チーム
 - ②地域交流・広報強化チーム

オ 社会貢献事業

- ・生活困窮者等の救済など社会福祉法人としてのあり方を検討
- ・地域住民を対象とした介護教室の継続的な開催
- ・ブランディングの一環とした新たな地域交流企画の実施

②介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

短期入所生活介護（ショートステイ）

ア サービスの内容

○ケアの質

- ・ご利用者とコミュニケーションを取る事で個々のニーズを把握し、気持ちに寄り添った質の高いケアの提供を目指す
- ・多職種が日々連携を取り合うことで、ケアプランに沿ったケアの積極的実践と個別ケアの充実を図る
- ・職員一人ひとりが能力を発揮し、施設の中での役割を理解できるよう指針を示す事で職員のモチベーションの向上を目指す
- ・年に2回ご利用者・ご家族との面談（オンラインを含む）を実施し、ご意向を反映させたケアプランを作成、多職種で情報を共有する
- ・介護職員は日々のご利用者の様子を細かく記録し情報を共有、また看護師・作業療法士と連携を取り、生活リハビリへの働きかけや、更なる生活機能の維持向上を目指す
- ・ショートステイについては、自宅での生活環境を考慮しながら、個々のニーズの抽出、ケア内容の共有化を多職種間で行い、またその内容をご家族、担当ケアマネージャーに報告する
- ・年2回アセスメントシートの見直しを行い、ご利用者の現状把握をする事で状況に合ったケアを目指す。新入職員や他部署からの職員でも正確にADLを把握しケアを行える環境を作る

○重度・医療ニーズの高いご利用者や認知症への対応力強化

- ・日々ご利用者と関わる上で健康管理に気を付け、些細な変化に対しても細かく記録し、介護、看護、栄養など多職種間で緊密な連携をとる。協力医

- 療機関と連携しご利用者の健康管理を行う
- ・ 看護師指導のもと施設内でも喀痰吸引の研修を行う
外部研修へも定期的に参加
- ・ 出来る限りご利用者が入院することないように、日頃から感染症・事故対策を行い、情報共有することでリスク軽減に努める。また手指洗浄・消毒、口腔ケア、オムツ交換時の陰部洗浄など、ご利用者の清潔を保持し、感染症予防を実施
- ・ 認知症ケアの専門性を高めるため東京都認知症介護実践者及びリーダー研修（東京都社会福祉協議会主催）などの認知症専門研修を受講

○看取り介護のあり方

- ・ その方らしい最期を迎えられるよう自己決定と尊厳を尊重したサービス計画を立て、多職種で協働し苦痛を緩和するケアを目指す
- ・ 看取り委員会を充実させ、施設の中での看取りについて最良な方法を多職種で検討し、目指す目標を共有する
- ・ ご利用者・ご家族の意向に沿った適切な情報提供を行う
- ・ 人生の最終段階における意思決定（アドバンス・ケア・プランニング）を支援

○業務改善

- ・ 業務の標準化を図り、外国人でも誰もがわかりやすいマニュアルを整備することで効率化を目指す
- ・ 記録を OA 化することで情報共有がしやすくなり、記録を基に適切なケアに繋げていけるよう多職種で連携を取る

○感染症予防

- ・ 新型コロナウイルス対応時のBCP（事業継続計画）を策定し、日頃から計画を確認・共有することで感染症の拡大を防ぐ
- ・ ガウンテクニックなど感染対応時の動画を作成することや、勉強会を実施し繰り返し確認することで感染症を拡大させない動作を身につける

イ 経営基盤の確立

○稼働率

	3年間
特養	96.1%
ショートステイ	197.5%
宿泊稼働率	99.0%

○ショートステイ新規顧客の獲得とリピーターの確保

- ・ ご自宅での生活と同様にくつろぎの場とし、落ち着きのあるゆったりとした時間を過ごせる環境を整備
- ・ ショートステイご利用者に向けた外出や行事の計画・実施
- ・ 緊急ショートステイの受け入れ体制の整備
- ・ ホームページや空室状況案内などによる有効的な広報活動

ウ 職員教育の推進

○OJTの強化

- ・ OJT組織図を意識した指導を行い、先輩から後輩へ正しく業務内容を伝えられているか確認作業をする事で双方のスキルアップを目指す
- ・ チームリーダーの育成

- ・ プリセプター制度の活用（2～5年中堅職員）
介護職員の定着、能力向上を図る為に一定期間マンツーマンで指導し、信頼関係を築く
- ・ インカムを活用し日頃からフロアの職員や多職種間でのコミュニケーションを取る事で円滑な情報共有を行う
- ・ 介護福祉士資格取得の推奨
- ・ 年2回中堅職員研修の実施、それを踏まえ法人全体の勉強会にて研修内容の報告を行い、中堅職員のスキルアップを目指す

③通所介護（デイサービス）

ア サービス内容

- 生活機能の向上に資する活動メニューの提供
ご利用者が、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、主体的に参加できるようなメニューを提供する。活動については、利用者自身が選択できるメニュー開発を更に進める。また、計画から進行まで、ご利用者自身が行う小グループ活動も増やす。機能訓練については、生活状況の把握により努め、在宅生活の課題が改善できるようなプログラムを個別に実行する。外出活動も機能訓練の一環としてとらえ、例えば買い物の一連の動作を行うプログラムなどを展開する。
- 活動の新しいツールの活用
タブレットにアプリを入れて、ご利用者自身で楽しめるアプリなど、タブレットやその他の新しいツールを積極的に活用し、ご利用者の好奇心を引き出し、また限られた人材の中でもサービスの質を向上させる取り組みを進める。
- 選択食の充実と利用者自身による配下膳
食事については、選択食をバイキングやビュッフェ形式などに発展させる。ご自身でご飯を茶碗にもるなど、在宅で行う動作を増やせるよう取り組む。
- 選択的サービスの展開
ご利用者が在宅で自分らしく楽しく生活していくために、介護保険で賄えないサービスの提供を進めていく。送迎車輛を使った人の移動や物の配達、夕食の提供などを展開する。

イ 経営基盤の確立

○平均利用者数

	1年目	2年目	3年目
一般	35名	37名	39名
予防	10名	10名	11名
	45名	47名	50名

- 科学的根拠（LIFEデータ）に基づく介護の実践による加算取得
今後、加算要件として必要となるLIFEデータに基づく介護の実践が出来るよう体制を整え、経営基盤の強化を図る。ご利用者の生活機能の向上を図り、在宅生活の安全・安心につなげる。

ウ 人材活用

外国人や障がいがある方々など、様々な人が働ける環境を整えるため、業務の標準化、簡略化、手間の削減を行う。また、在宅サービス課として人材を

流動的に配置できる仕組みを構築し、ライフワークバランスを実践する。

エ 地域貢献

地域のすべての方々にとって、暮らしやすいまちづくりのために、デイサービスセンターの資源を活用する。食事や買物、送迎車輛による移動などの生活支援や、地域活動の場や機会の提供による生きがい作りなど、高齢、児童、障がい分野にかかわらず生活しやすい地域作りのための活動を行う。

オ 情報発信・共有・活用

デイサービスセンター内の掲示板をはじめ、ホームページ・ブログ・インスタグラムなど、誰に何のために伝えるのかを明確にし、効果的な情報発信を行う。

④訪問介護（ホームヘルプ）

ア サービス内容

- 登録ホームヘルパー（以下 ヘルパー）の質の向上
幅広い年代、様々な生活環境、多様なニーズに対応したサービスの提供をスムーズに行えるよう研修や情報提供によるヘルパーのスキルアップを行う。
サービス提供責任者への登用を見据えた指導・育成を行う。

イ 地域の介護人材へ向けた事業所のアピール・就業案内

- 「板橋区介護に関する入門的研修」の修了者向けの就労相談会や当施設内のスペースを提供して開催している初任者研修・実務者研修において、多様な働き方が可能であることなど訪問介護ならではの仕事の魅力を伝え、ヘルパーへの登録へつなげる。
- ヘルパーとして登録後も、初任者・実務者研修修了や介護福祉士の資格取得を促し知識・技術の向上を図る。
部内で行う研修内容にヘルパーの要望や意見を反映し積極的に学べる環境を整える。

ウ 働きやすい環境の整備

- サービス提供責任者の業務の見直しを行い効率化を進めることにより、残業の削減、有給消化率のアップを図る。
- 在宅サービス課として、デイサービスと連携しお互いの業務において、必要なフォローがスムーズにできる環境を作る。

エ 経営基盤の確立

- 目標利用者数の推移

	1年目	2年目	3年目
利用者数（月平均/人）	173	176	180
稼働時間（月間/時間）	1,267	1,288	1,317

- 地域のサービス需要の把握・情報提供
新型コロナウイルスの感染状況に応じた各居宅支援事業所・地域包括支援センターへの訪問を継続して行う。
各居宅支援事業所・地域包括支援センター宛のチラシなどで、実際に対応したケース・支援内容などを紹介し、事業所としてできる事を情報提供する。

⑤居宅介護支援事業

ア サービスの内容

- ・要介護状態となっても可能な限り自宅で自立した日常生活が送れるように支援を行う。
- 地域のインフォーマルサービスを積極的にケアプランに位置づける。
- ウィズコロナを見据えオンラインも活用したケアマネジメントの実施。
- 研修計画を作成し、介護支援専門員のレベルアップを図る。

イ 経営基盤の確立

- ・特定事業所加算Ⅱの算定と適正担当件数 35 件の維持に努める。
- ・事業所でチームとしてフォローができる環境をつくり、職員が定着し安定した収益が得られるように努める。

⑥地域包括支援センター

ア サービスの内容

- ・介護予防・日常生活支援総合事業、インフォーマルサービス等を組み合わせ高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるように支援。
- ・ケース検討の機会を増やし、対応力の向上を図る。
- ・認知症の方を地域で支えられるような地域づくり。
- ・医療と介護の連携や多職種との連携を強化し、切れ目のない支援が提供出来るような体制を整備、ICT の活用。

イ 生活支援体制整備事業（第 2 層協議体）

- ・地域住民が資源マップやインターネットを活用し、地域の情報が得られるような体制を引き続き整備。
- ・支え合い会議成増を高齢者のみでなく多世代への周知を目指す。
- ・地域の担い手を増やす仕組みづくりを行い、地域の活性化を図る。
- ・住民の方々が気軽に立ち寄り、相談できる集いの場づくりを試験的に行う。

2. 法人全体（単年度）

（1）食事・栄養管理

①令和 5 年度計画策定にあたり

計画策定上の 5 つの柱

- ・ご利用者に食べる楽しみや食べる力を持ち続けていただくため、献立の改善、食器の検討、提供方法の検討、イベントの実施や希望に沿った食事、嗜好調査、安全に配慮した食事の提案、提供を行う。
- ・業務量削減のため、食事シートの活用や食札などの改善を行う。
- ・安心安全な食事提供をおこなうため、衛生管理の徹底、調理技術の向上、食事形態の標準化、食品加工の統一を図る。
- ・コロナ感染時及び災害時に備えたマニュアルの見直しを行う。
- ・個々に応じた栄養ケアを多職種で共有する。

②研修計画

- ・東京都社会福祉協議会の研修参加。
- ・保健・医療・福祉の栄養関係者によるネットワーク連絡会に参加し、栄養士のネットワークと在宅支援の研修参加。

③食事サービス計画

行事食	季節の行事にちなんだ料理の提供 お正月 ひな祭り 端午の節句 土用の丑の日 など
セレクト食 ※	お食事を選んでいただく機会をつくる (おやつ・主食・主菜など)
寿司の日	寿司メニューの日 (散らし寿司・ネギトロ丼・太巻き寿司など)
好評料理の提供	お赤飯・カレーなど好評いただいているメニューの継続提供
バイキング ※ (別途料金)	大皿盛りの料理からお好みの量でお好きな料理を選んでいただく (デイサービス 6月・1月)
イベント食 ※ (別途料金)	特別料理や職人による実演 ・にぎり寿司 (11月・2月)・そば打ち (10月)
ご当地メニュー	毎回テーマを決め、地域の食材を生かした献立作成をする
お楽しみメニュー ※	数種類の中から好きな物を選んでいただいたり、楽しみをプラスした食事の提供を行う
食事提供の多様化 ※	デイサービスでの夕食提供、おやつイベント (パーラー) 地域の高齢者、新規入所のご家族・デイサービスご利用予定の方、 こども食堂等へのお食事の提供
職員食イベント	職員食のイベントを実施 (7月・9月・3月)
ミールラウンド ※	給食業者職員が定期的に食事時にラウンドを行い、食べたい物やリクエスト等をうかがい献立に反映をしていく

※ コロナ禍のため規模縮小または中止しているが、感染状況により再開する

(2) 人材育成

・令和5年度計画策定にあたり

人材確保が厳しい状況のなか新規雇用、人材育成と定着は、引き続き重点課題であり、法人全体として様々な取り組みを実践する。常勤雇用としての外国人材の受入れは4年目を迎え、合計5名の外国人常勤職員を含め、新規雇用職員が活躍できる職場づくりを進める。

コロナ禍で動画視聴型の研修手法も定着し、内容も充実しており、介護経験の浅い職員も含め、引き続き一人ひとりの職員が、接遇マナーから専門的な知識や技術を習得し介護を実践できる育成計画とした。

ワーキングチームを中心とした毎月開催の勉強会や、中堅職員対象のグループワーク研修の開催により、個人のレベルアップに加え、法人理念や新たな取り組みへの意思統一を図り、チーム力の強化を図る。また、昨年度実施できなかったリーダー層向けの研修も実施したい。

(3) 防災対策計画

①令和5年度計画策定にあたり

令和5年度においても、事業継続計画(BCP)の見直し・更新を速やかに行い、実際の災害発生時に有効的に活用できるよう、法人全体の防災対策強化を図る。

前年度に引き続き、非常用発電機の管理・備蓄品の管理・自動参集システムなど、平時からの備えとなる必要資料の作成・更新・管理を徹底するとともに、職員に対してはケアワーカー会議等の時間を利用して、防災設備や防災用品の使用法等の講習会を取り入れることで、知識の底上げを行う。

さらに、給食委託業者との連携も強化し訓練参加の機会を増やすとともに、前年度に見直しを行った災害時の非常食メニュー、保管場所及び在庫管理等についても周知徹底する。

コロナ禍ではあるが、志村消防署成増出張所職員に立会いをお願いしている全館合同の防災訓練において、6月の防災訓練では日中における大規模震災を想定した訓練、12月の防災訓練では、特養は夜間想定訓練、デイサービスは日中大規模震災を想定した避難訓練を行う。また、初期消火訓練についても新人職員・外国人職員を中心に確実に使用できるよう消防委員が指導していくとともに、シェイクアウト訓練を年4回実施し、災害発生時の初動に対する意識を継続的に高めていく。いざという時に慌てる事のないよう、役割分担を職員が繰り返し覚えることで確かな防災体制を築く。

また、9月には自衛消防隊による2号消火栓操法確認会も行われる予定である。当施設からも消防委員で自衛消防隊を組織し、参加することで防災への意識・チームワークの強化を図りたい。

在宅部門は前年度の反省点を活かし、災害発生時の初動や配置等の共通意識を高め、備蓄品の使用方法や管理方法の再構築を進める。

また、コロナ禍ではあるが、地域の防災訓練にも可能な範囲で参加し、町会内で締結した災害時応援協定者(成増第一町会、音羽台レジデンス、オーネスト成増)との四者間の協力体制も合同訓練等を通じ強化したい。

②月別 防災訓練・確認会予定

実施月	活 動	内 容
4月	訓練	シェイクアウト訓練(全職員)
	委員会	令和4年度の方針について
		災害用非常食の確認
		備蓄ガソリン入替・発電機動作確認【点検】・災害BOX確認
5月	委員会	緊急連絡網更新確認
		6月実施避難訓練の概要検討他
6月	訓練	◎避難訓練(日中大震災発生想定)志村消防署員立会い
		給食委託業者消火訓練
	委員会	避難訓練の報告
		自動参集システム確認
7月	訓練	シェイクアウト訓練(全職員)

	委員会	自衛消防隊編成（コロナのため未定） 備蓄ガソリン入替・発電機動作確認・災害 BOX 確認
8月	訓練	自衛消防隊訓練【消防署にて】（コロナのため未定）
	委員会	備蓄品の在庫確認（非常食・医薬品・消耗品等） BCP 確認会
9月	訓練	安否報告メール訓練 2号消火栓操作法確認大会（コロナのため未定）
	委員会	2号消火栓操作法確認会の報告、10月確認会の概要検討
10月	訓練	シェイクアウト訓練（全職員）
	委員会	BCP 確認会 備蓄ガソリン入替・発電機動作確認・災害 BOX 確認
11月	訓練	災害伝言ダイヤル体験（全職員） 災害時協定者による合同訓練（コロナのため未定）
	委員会	12月避難訓練の打ち合わせ他
12月	訓練	◎避難訓練 志村消防署員立会い ポータブル発電機作動訓練（職員） 災害時協定者による合同訓練の報告他
	委員会	避難訓練の報告・学習会の内容検討他 備蓄ガソリン入替・発電機動作確認・災害 BOX 確認
1月	訓練	シェイクアウト訓練（全職員）
	委員会	避難訓練の報告・学習会の内容検討他 備蓄ガソリン入替・発電機動作確認・災害 BOX 確認
2月	訓練	給食委託業者炊出し訓練（コロナのため未定）
	委員会	BCP 確認会
3月	委員会	一年の反省・次年度の課題設定他

※志村消防署主催による救急救命講習会は日程が決まり次第消防委員が参加予定

（４）委員会活動（法人全体）

①感染症予防委員会

感染症予防委員会を基本的には月 1 回開催を継続。内容としては、感染症流行シーズン前の予防対策確認、感染症予防マニュアルの更新、BCP、施設内ラウンド又、感染症を予防するためには、種々の感染症の理解と予防する知識、ケア技術が必要になるため最新の感染症対策に則した予防研修の内容検討などを行う。感染症予防全体研修は年 2 回、他に部署別研修では PPE の再確認や発生時の振り返り、新入職員向けには随時行う。感染症発症時または流行時には、随時関係者が集まり確実な

情報共有が行い、感染の広がりを防止していく。今年度も引き続き職員一人ひとりが感染症の予防に努められるようにする。

※新型コロナウイルス関連会議体は適宜実施

月別 研修会予定

実施月	活動	内容
5月	全体研修	感染症予防について
9月	部署別研修	感染（ノロウイルス、インフルエンザ、新型コロナウイルス）予防の実践
10月	全体研修	感染（ノロウイルス、インフルエンザ、新型コロナウイルス）対応の実践確認

②衛生委員会

令和5年度も働き方改革を継続的に推進していく。「健康で働きやすい職場環境の整備」を進め、腰痛対策として、始業前のラジオ体操やストレッチの実践、スライディングボードやリフトの活用に加え、新たな介助器具の導入も検討する。

また、身体の健康だけでなく心の健康にも留意し、グループウェア等を活用し健康に関する様々な情報を発信する。職場でのストレスの軽減にも引き続き目を向けて、ストレスチェックシート（8月・2月実施）に加え、「厚生労働省版ストレスチェック実施プログラム」も併せて実施。職員面談の機会を設けるなど、風通しのよい職場環境づくりを進める。ハラスメントに対する基本方針を作成し、職場内や利用者からのハラスメントの防止・予防のための取り組み、発生した場合の対応や対策を整備する。

③業務改善委員会

法人全体としての業務改善を検討する場として毎月1回開催。ハード・ソフト両面より業務内容を見直し、改善の進捗状況を確認しながら計画的に業務の効率化を進める。また、課題ごとに部署を越えた小グループの担当者を決め、業務の効率化を目的に、各担当者が主体となり問題解決を行う。

④接遇向上委員会

ご利用者様や来客の方々に対するお声かけや職員間の会話について統一した声掛けが出来る様に動画作成や研修を行い、法人の考える接遇を実践した。

動画による研修や接遇自己チェックシートを活用し接遇に対しての意識を再度職員に根付かせてくることで、より良い接遇を目に見える形で実践してきた。職員の服装・身だしなみが統一できるよう身だしなみチェックシートを活用し、研修ではZOOMを使用し、実際の場面想定動画を作成・配信を行った。本年度は全職員が十分な接遇レベルを保つことを目標に「です、ます、はい」の丁寧語の徹底、動画を取り入れたわかりやすいNGワードの周知等、全体研修や接遇向上週間を活用し各職員の接遇意識を高めていく。個人の目標(標語)の振り返りを行い、「ここに来れば笑顔に成増(なります)」につながる目標(標語)の設定できるようにする。接遇目標に関しては各部署各々上げることとし接遇に対しての意識を部署ごとで共有することで接遇目標を達成するように部署ごとで努めていく。

月2回朝礼で発表している利用者様との「ほっこりエピソード」から、「ほっこりエピソード大賞」を職員の投票で選出し表彰を行う。

月別 接遇向上委員会 活動予定

実施月	活 動	内 容
4月	接遇マイスター発表表彰 接遇標語 委員会	個人目標の設定 全体研修内容検討 部署毎の接遇目標設定
5月	委員会	全体研修内容検討
6月	全体研修 委員会	全体研修振り返り 接遇向上週間内容検討
7月	委員会 接遇向上週間	接遇向上週間 自部署及び他部署の接遇チェック
8月	委員会	接遇向上週間振り返り
9月	委員会	ほっこり大賞選出
10月	ほっこり大賞発表表彰 委員会	全体研修内容検討
11月	全体研修 委員会	全体研修振り返り
12月	委員会	身だしなみチェックシートの見直し
1月	委員会	接遇向上週間内容検討
2月	接遇向上週間 委員会	自部署及び他部署の接遇チェック 接遇向上週間振り返り
3月	委員会 接遇チェックシート	一年の反省・次年度の課題設定 接遇マイスター選出

(5) ワーキングチーム (法人全体)

①職員育成強化チーム

法人勉強会の企画と運営を担当。年間の勉強会計画を作成し、動画視聴型の研修を中心に研修を開催する。「介護」について正しい知識が深められるような内容を職員アンケートやその感想コメントから抽出し構成する。介護レベル評価のチェックシートをもとに、OJT研修についても個別や集団指導を行うことにより、習熟度の向上を図る。作成済みの動画マニュアルを含め、内容の見直しや更新を行い、未経験者や外国人労働者が即戦力として業務ができるような体制づくりを実践する。

月別 勉強会予定

実施月	OJI 組織図による 対象区分	内 容
4月	全職員	食事について
5月	全職員	感染症（食中毒）について
6月	介護職必須	排泄介助・褥瘡予防について
7月	全職員	虐待防止・身体拘束について

8月	全職員	記録について
9月	全職員	中堅職員研修発表
10月	全職員	感染症について
11月	介護職必須	事故・ヒヤリハットについて
12月	介護職必須	認知症の方への対応について
1月	全職員	基礎医学／病気の知識・看取りについて
2月	全職員	福祉用具・介護用品の使い方について
3月	全職員	今年度の振り返りと次年度のブランディングについて

②地域交流・広報強化チーム

ウィズコロナ、アフターコロナを視野入れた高齢者施設ならではの地域との関りを検討する。前年度から試行をはじめた弁当配布等の取り組みも継続的な支援活動として定着化を図る。また、選ばれる施設となれるよう、PR活動についてもホームページのブログやInstagramを中心に積極的に情報発信を行う。施設見学動画等を新たに作成し、ホームページ内にて掲載。チラシ内のQRコード等、それぞれのPR手法が連携するような活動を行う。

(6) 法人行事計画

令和5年度においては、イベント開催等の規制の緩和が見込まれるが、引き続き感染症の発生状況を見ながら開催の可否や開催方法について検討する。インターネットを活用した、オンラインツアーやオンラインレクなど積極的かつ柔軟に対応していく。

《年間行事》

月	イベント	特養	デイ	ヘルパー	住民参加 (ボランティアを含む)
4月	花見	○	○	—	
5月	春の作品展示会	○	○	—	○
	端午の節句(菖蒲湯)	○	○	—	
	夏野菜苗植付	○	○	—	
	新緑・薔薇ツアー	○	○	—	
	食事会	○	—	—	
	移動水族館	○	○	—	
6月	志村学園交流会 (DVD)	○	○	—	
7月	七夕(笹飾り)	○	○	—	
	夕涼み会	○	△	—	
8月	いたばし花火大会中継	○	△	—	
	夏祭り	○	○	—	
9月	敬老会	○	○	—	
10月	食事会	○	—	—	
	運動会	○	○	—	
11月	紅葉狩り	○	○	—	
	秋の作品展示会	○	○	○	○
12月	ゆず湯	○	○	—	
	餅つき	○	○	—	
	クリスマス会	○	○	—	

1月	初詣	○	○	—	
	正月(正月遊び)	○	—	—	
2月	節分会	○	○	—	
	梅見会	○	○	—	
3月	桃の節句	○	○	—	
	イチゴ狩り	○	○	○	○

※△…感染症の状況により開催を検討する活動

《月間活動》

曜日	週目	内容	特養	デイ	ヘルパー	住民参加 (ボランティアを含む)
月	毎週	囲碁・将棋倶楽部	△	○	—	△
	毎週	アート教室	△	○		△
	毎週	ウォーキング	—	○	—	
火	毎週	折り紙クラブ	○	○	—	△
	毎週	ウォーキング	—	○	—	
水	第4	パン販売	○	○	—	△
	毎週	書道クラブ	○	○	—	△
	第4	フラダンス	—	△	—	△
	毎週	ウォーキング	—	○	—	
	毎週	ヤクルト販売	○	○	—	
	毎週	ダイエー移動販売	○	○	—	○
木	第3	生け花	△	○	—	△
	第3	太極拳	—	△	—	△
	毎週	囲碁・将棋倶楽部	△	○	—	△
	毎週	ウォーキング	—	○	—	
	毎週	アート教室	△	○	—	△
金	第3	生け花	△	○	—	△
	第2	パン販売	○	○	—	△
	毎週	ウォーキング	—	○	—	
	毎週	手芸倶楽部	○	○	—	△
土	第1・4	喫茶	○	—	—	△
	第3	生け花	△	○	—	△
	毎週	ちぎり絵講座	△	○	—	△
不定	月1回	志村学園交流会	—	○	—	
	年4回	オンライン紙芝居	○	○	—	○
	月1回	絵本の読み聞かせ	△	△	—	△
	月2回	JOY サウンドレク	○	○	—	
	月2回	スイーツイベント	—	○	—	

※△…感染症の状況により開催を検討する活動

3. 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

短期入所生活介護（ショートステイ）

（1）令和5年度計画策定にあたり

ご利用者・ご家族が安心して安全且つ、楽しく過ごせるように支援していくために一人お一人が望む日常生活を営むことができるようにご利用者がどう過ごしたいかを聞き取り、職員間で共有し個別ケアに繋げていく。そのために職員の観察力を高め、日常記録を適時に残すなどの原点に立ち戻りご利用者と密に関わるようにする。記録のOA化も進み、今後はすでに導入されているインカムなどの電子機器の使用状況を見直し、情報共有ツールとして更なる有効活用を目指す。自立支援や重度化防止など科学的介護の取組みを通じてケアの標準化を目指す。

コロナ禍で制限がある状況が続いている中でも、できる限りの外出やレクリエーション、ご家族と過ごせる時間を作れるよう努める。

○重点項目

- ・認知症ケアの専門性強化
- ・看取りケアの充実
- ・職場環境の向上

○具体的目標

① 認知症ケアの専門性強化

- ・ご利用者の尊厳を守りつつ本人主体のケア実現に向け、ご利用者の思いを聞き取りケアに反映させる。
- ・個々の認知症状について多職種で共有し、統一したケアを提供する。
- ・認知症を理解するため医学知識の取得やコミュニケーション技術・観察力のスキルアップに向けた勉強会を行う。
- ・ご利用者が自己決定した周辺環境を提供できるよう整える。

② 看取りケアの充実

- ・最期まで「自分らしく」を支える存在であることを職員が認識できるようにする。
- ・看取りだから特別なことをするのではなく、その方らしい日常生活が最期まで送れるよう寄り添ったケアを行う。
- ・職員が不安なく看取り介護に取り組めるよう職種間の連携を密に図りチームとして進める。
- ・看取りケア外部研修に参加する。

③ 職場環境の向上

- ・人材と時間を有効活用できるよう曜日、時間帯ごとの配置を工夫し、その時間を余暇活動に当てる。
- ・業務の効率化に繋がる電子機器の導入。
- ・外部研修への参加を進め職員のスキルアップを図る。

(2) 人員配置

	施設長	配置医師	介護支援専門員	生活相談員	介護職員	看護職員	管理栄養士	機能訓練指導員	作業療法士	音楽療法士	事務員	計
基準数	1	1	1	2	25	3	1	1	—	—	—	35
計画	常勤			4	25	3	1				3	36
	非常勤		1		10				1	1	1	14
	兼務	1		2				1				4

(3) 年間事業計画

①月間行事予定

- 誕生月・・・ 毎月の誕生者の御祝。誕生日当日に担当職員より誕生日カードの贈呈、当日おやつにケーキの提供、出前食・外食の優先参加。
【※現在はコロナにて外出が難しい為、出前食を中心にを行い、誕生者が多い月は2日間に分けて誕生月の方を優先し参加出来るように実施】
- 喫茶店・・・ 郷土銘菓や季節感のあるお菓子を準備し、月2回（第1土曜日、第4土曜日）各フロアおやつ時に提供。
- 外食・出前食・・・ その月の誕生者を中心に、近隣のレストラン等へ昼食に出かける。外出が困難な方を対象に、出前食を実施。ホテルや専門店への外食も企画。
【※現在はコロナにて外出が難しい為、出前食中心に実施。誕生者が多い月は回数を増やし、多くの方に参加して頂けるよう実施】
- 買物代行・・・ ご利用者のご要望に応じ食品や日用品等の買物を職員が代行。ダイエーの移動販売（毎週水曜日）に合わせご利用者に必要な物を聞き取り購入。
- パン販売・・・ パン工房イクトスによるパン販売を第一水曜日・第三土曜日に実施。
- ヘアカット・・・ 月1～2回訪問美容師が来所しカット・パーマ・カラー等を実施。
- 生鮮買物代行・・・ 事前の要望に応じたメニュー・季節メニューの中から好きな物を選択、移動販売で購入し夕食時に提供。2階、3階それぞれ隔週で実施。（7月～9月の夏季期間中は生もの以外のおかずの買物の実施）
- オンラインレク・・・ ZOOMにて外部で行っているオンラインのレクリエーションをテレビに繋ぎ体操やクイズなどご利用者に楽しんで頂く。

ひのき湯・・・・・・ 日曜日にデイサービスひのき浴槽で温泉気分を味わって頂く。

② 週間行事予定

- ヤクルト販売・・・・・・ 毎週水曜日に訪問販売員によるヤクルト商品の販売
- リハビリ・・・・・・ 毎週月曜日に作業療法士による集団・個別リハビリ実施
【※現在はコロナの為、作業療法士による体操のビデオを毎週水・土曜日に流し体操を実施】
- 移動販売・・・・・・ 毎週水曜日にダイエーによる食品・日用品の販売
- 傾聴ボランティア・ 毎週木曜日、金曜日にボランティアの方とテレビ電話を繋ぎお話し出来る機会を作る

③ その他の行事（法人行事計画参照）

- 地域の幼稚園、小学校との交流会
- 地域のボランティアによる演芸等

④ 医務室年間予定

4月	新型コロナウイルス予防接種	
5月	区健康診断問診準備 体力向上月間	
6月	食中毒予防のお知らせ作成、掲示 区健康診断の実施 感染予防月間	法人感染症予防委員会と特養感染症委員の連絡調整と備品整備
7月	区健康診断の実施・脱水予防月間	室温・体調管理
8月	区健康診断要注意者の再検査、結果通知 脱水予防強化月間	室温・体調管理
9月	インフルエンザ同意書準備 転倒予防月間	
10月	インフルエンザ同意書郵送、回収 体力強化月間	
11月	インフルエンザ予防接種 感染症予防月間	バスハイク添乗 (コロナの状況により) 消毒薬品の整備
12月	年末年始緊急体制の確認、整備	大掃除
1月	褥瘡予防月間	室温・体調管理
2月	区健康診断結果整理	室温・体調管理
3月	看護サマリーの更新	バスハイク添乗

※身体拘束管理委員会・事故対策委員会・感染症予防委員会

⑤ 余暇活動（月1～2回の開催）

ご利用者一人ひとりに合わせ希望に沿った活動を実施する。
法人行事計画に準ずる。

⑥ 委員会（各委員会隔月1回以上の開催）

各委員会で専門知識のスキルを外部研修等で身に付け、委員会を運営する。

生活改善委員会 食事・入浴・排泄など介護の基本となる改善点を各係と共に話し合い改善に繋げる。

- ・食事係： 法人全体の栄養会議（毎月1回）への参加。ご利用者にとって安全で味わいのあるお食事が提供出来る様に食形態や自助具の見直しを行う。ご利用者や職員の意見が検討会議にて反映されるように係が中心となり日頃からの意見聴取を行う。摂食・嚥下診察を行っている歯科医師とも連携し、口から食べる楽しみを得られるような支援の充実を図り、多職種との連携情報共有を行った上でのプロセスを評価していく。また、日常的に口腔リハビリ体操を取り入れ、ご利用者の口腔機能の維持改善に努める。
- ・入浴係： ご利用者ひとり一人の生活の質（QOL）の向上を目指し、ご利用者の状況や希望を反映できるような入浴形態を日々提案し、ご利用者の日常生活動作も考慮した入浴を検討する。また、排泄係と連携しその方の排泄パターンに合わせて、ご利用者が快適に入浴できるよう曜日や時間の検討を行う。
- ・排泄係： ご利用者ひとり一人の排泄状況を把握、理解し、それを基に個々に合わせた排泄ケアの検討、実施、情報の発信を行う。月に一度ご利用者の排泄状況を見直した上で、医務と連携し下剤の調整依頼など、ご利用者の不快感を少しでも減らせるよう努める。入浴係とも連携し、入浴時間に合わせて排泄時間も調整する。

褥瘡対策委員会 月に一回褥瘡対策委員会への参加。褥瘡施設内発生ゼロを念頭に置き、医療機関からの退院時および新規入居者の発症者に対する早期治癒を目指す。また「褥瘡発生予防に関する考え方」を基に褥瘡予防・関連職種との情報共有や研修を行い周知する。

環境整備・感染症予防委員会

ご利用者が安全で快適な生活を送る為に個々の落ち着ける環境作りを検討する。感染症について予防する体制整備や、感染症やその対応に対する研修を充実させ、感染症発生時の迅速な対応と拡大防止策の内容を職員に周知し、ご利用者に感染が広がらないようにする。また、新型コロナウイルスの感染対策を法人全体の委員会を通して立て、ガウンテクニックなどの動画マニュアルを作成し感染症に備える。定期的な勉強会の開催。法人全体の感染症予防委員会の参加・連絡調整を行う。

※年3回の研修実施

事故・安全対策委員会

日常生活の中での事故発生状況を把握し、その対策やリスクマネジメントに積極的に取り組み、誤薬等の職員のミスによる事故発生をゼロにすることを目標に掲げ、ご利用者が安全に生活を送れるように努める。毎月、事故・ヒヤリハットの集計を行い、回覧する事で同様の事故が続かないよう対策実施の徹底を行う。事故予防と対策の勉強会を実施。

法人全体の介護事故防止委員会への報告・連絡調整。
※年2回の研修実施

身体拘束廃止・虐待防止委員会

身体拘束廃止・虐待防止に係る制度に則した体制を構築し、対象となるご利用者の状況観察を行い、随時検討し拘束解除に向けて取り組む。センサーの管理やベッド柵の使用状況を把握し、拘束にあたらぬか精査、判断を行う。また、勉強会を通して身体拘束や虐待についての理解を深める。法人全体の身体拘束廃止委員会への報告・連絡調整を行う。
※年2回の研修実施

医療検討委員会

痰の吸引・経管栄養・看取り等医療ニーズが高い方を受け入れる中で、医師を含めた多職種と話し合う場を設ける。個別で検討する内容を情報共有する。
※年2回「看取り」について研修実施

⑦BCP策定計画

台風・地震等の自然災害発生時や新型コロナウイルス等感染症にも安定的・継続的に必要なサービス提供が行える体制の構築に向けBCP（事業継続計画）の策定を完結する。

(4) 日課表

時 間	日 課	介護士勤務体制					
		早	L	B	遅	夜17	夜18
6:00	起床					離床	離床
6:30	整容・バイタル測定					離床	離床
7:00	朝食準備	朝食				朝食 配薬	朝食
7:30	朝食						
8:00	下膳・口腔ケア	下膳/臥床					片付け 保安
8:30	職員申送り・消毒	臥床	臥床			記録	
9:00	排泄介助	トイレ	入浴	トイレ			2回食
	余暇活動（音楽療法・クラブなど）						
10:00	水分補給	保安	入室整理				
	離床介助						
11:00	昼食準備・体操				離床		
11:30	昼食	休憩	休憩	昼食	昼食		
12:00	下膳・口腔ケア			臥床	臥床	下膳	
	臥床介助						
13:00	職員申送り・消毒	入浴	トイレ	休憩	保安		
	排泄介助						
14:00	余暇活動（クラブ・季節の行事など）	保安 記録	オムツ	オムツ			
15:00	おやつ	おやつ	おやつ	休憩			
15:30	排泄介助	2回食	トイレ	入浴			
16:00	ゴミ捨て	保安	離床	トイレ			
16:30	夕食準備	記録	夕食	夕食	合包 配薬		
17:00	夕食						
18:00	下膳・口腔ケア				臥床 排泄	臥床 排泄	片付け 保安
18:30	臥床介助						
19:00	排泄介助						
20:00	就寝薬内服介助					就薬	V/S
21:00	排泄介助					オムツ	オムツ
22:00	巡視					巡視 体交	巡視 体交
23:00	巡視						
0:00	巡視						仮眠
1:00	巡視						
2:00	巡視					仮眠	巡視 体交
3:00	巡視						
4:00	排泄介助					排泄	排泄
5:00							

4. 通所介護（デイサービス）

（1）令和5年度計画策定にあたり

令和4年度においては、オンラインによるレクリエーションや、特養との合同によるオンラインツアーなど、感染症対策を施しながら活動性を保てるような工夫に力を入れた。また、おやつを提供方法も数種類からお菓子とドリンクを選択できるようにしたり、浴室を温泉旅館のようにリニューアルしたりと、満足度の向上を図った。また、食品や衣料品の移動販売を利用した買物プログラムを実施し、楽しみながら生活機能の向上につながると、ご利用者にもとても好評であった。令和5年度についても、そのような『自立支援』に繋がるサービスの提供を推し進めていく。まず、在宅生活における課題を解決するよう、機能訓練プログラム（浴槽の跨ぎやシルバーカーでの段差乗り越え等）と買物・洗濯・食事・外出（移動手段）等の生活支援サービスにより、在宅生活がより安心・快適に続けられるようにする。次に、その在宅生活がより生き生きと送れるよう、自己選択・自己決定できるような活動メニューの充実、提供方法やスペース作りを行う。既に選択制を導入したおやつについても、いつでも好きな時に食べられるようにする等、より自由度を高めていく。社会参加や役割を担っていただくことでやりがいを感じてもらえるよう、お手伝いプログラムの充実や地域の作品展示会への参加等も進める。コロナ禍が続き、自粛していた外出やボランティアによる出し物等、イベント的な活動も状況に合わせて実施していく。その際、法人内の他事業とも連携し、より充実した内容にしていく。また、それらを推し進めていく中で、地域の名品やイベント等、地域資源を有効に活用し、同時に福祉車両の体験会を近隣の学校で開催するなど、当法人の資源も地域に還元できるようにしていく。このような取り組みの遂行のために、情報共有と職員間の意思統一、業務効率の向上、法人内の事業間の連携を図り、具体的に実行することで職員のやりがいや充実感に繋げていく。

【具体的施策】

①自立支援に資するサービスの提供

ア 在宅生活の課題解決

- ・浴槽の跨ぎやシルバーカーでの段差乗り越え等を改善する機能訓練プログラムを提供する。
- ・買い物、洗濯、食事、外出(移動手段)等の支援を行う。

イ 自己決定・自己選択

- ・活動メニューをさらに充実させる。
- ・したい時に、やりたい活動が出来るよう、提供方法や環境の整備(スペース作り)を行う。
- ・おやつを選択制と好きな時間に食べられる提供方法を検討する。

ウ 社会参加・役割作り

- ・お手伝いプログラムの項目を増やす。
- ・カフェ・パティナなど、作品展示イベントに積極的に参加する。

エ イベント(活動)の充実

- ・ご当地メニュー（昼食）と変わり湯（入浴）のコラボレーションを図る。
- ・外出活動の充実を図る。
- ・ボランティアの受入れを状況に合わせて再開する。
- ・他事業（特養・訪問介護）と連携した活動を工夫する。

②地域資源の活用・地域への還元

ア 地域資源の活用

- ・地域の名品をおやつに提供する。

- ・地域の作品展示会等への参加（出品）する。
- イ 地域への還元
 - ・車イス・福祉車両の出張体験会などを企画し小学校等へ提案する。

③業務改善

- ア 情報共有・職員間の意思統一
 - ・申し送り・ミーティングの方法、インカムの使用方法等の見直しを行う。
- イ 効率化による時間の捻出
 - ・業務項目（内容および作業時間）の洗い出しを行い、削減・統合を図る。
- ウ 法人内の事業間の連携
 - ・イベントの合同開催、協力体制の整備を図る。
 - ・在宅サービス課内の人員を効果的に配置する。
 - （令和6年度の制度改正を見据え）

(2) 研修計画

会議名	内 容
外部研修	各種研修に参加し、地域サービスの実態把握、意見交換などを行い、新たな取り組みの考案に繋げる
施設見学	他事業所への見学を行い、新たな取り組みの考案に繋げる

(3) 会議及び委員会活動

会議名	内 容	開催予定
常勤会議	在宅サービス課の常勤職員間で、それぞれの課題の共有と意思の統一を図り、解決に向け課内で取り組む	月2回
職員会議	業務全般に関する課題と改善策について理解を深め、職員全員で遂行する	月1回
ケース会議	各ご利用者の趣向や状態について各員の意見を反映させ、情報の共有化を図る	随 時

(4) 計画人員配置

	施設長	配置医師	介護支援相談員	生活相談員	介護・看護		管理栄養士	機能訓練指導員	運転手	計
					介護職員	看護職員				
基準数	1			1	8	1	1	1		13
計画	常勤			2	5			1		8
	非常勤				10	2			9	19
	兼務	1					1	2		4

(5) 感染症や災害への対応力強化

① 感染症発生・まん延予防

- ・ 感染症予防委員会を中心とし、日頃の感染予防対策、感染発生時の対応について適宜検証し、研修・訓練を定期的実施する。
- ・ 通所介護における事業継続計画（BCP）を策定する。

② 災害発生時の対応

- ・ 消防委員会を中心とし、災害対策、災害発生時の対応について適宜検証し、研修・訓練を定期的実施する。
- ・ 通所介護における事業継続計画（BCP）を策定する。

③ 災害への地域との連携

- ・ 消防委員会を中心に実施している地域との合同災害訓練の継続・強化を図る。

5. 訪問介護（ホームヘルプ）

(1) 令和5年度事業計画策定にあたり

令和5年度も前年度に引き続き業務改善の推進を行いたい。

土日の支援の体制強化やヘルパーの有給休暇取得によるサービス提供責任者の支援時間が増えていることから、平日に公休を取得するシフト整備が必要となっている。令和5年4月から運用が開始となるケアプランデータ連携システムや令和6年度に予定されている介護保険の制度改革（通所介護による訪問サービス、要介護1・2の方の総合事業への移行など）に向けた情報収集や対応、新規支援依頼に柔軟に対応するためにもサービス提供責任者の事務所内業務を見直し、業務改善・効率化をさらに進めていく。

新型コロナウイルスの対応については、感染症法上の分類が変更されることが決まり、感染予防対策の見直しが必要となることも考えられる。感染や感染後の重症化リスクを避けるためにもヘルパーに対しては基本的な対策の継続を徹底したい。

その他、BCP（業務継続計画）の策定やハラスメント対策など、ご利用者やご家族にとっての信頼できる事業所、ヘルパーにとっての働きやすい職場となるよう取り組

みを行う。

以上を踏まえ下記の項目を重点的に行い、事業所運営を進める。

① 業務改善・効率化の推進

事務所内業務の見直しや改善を行い、各サービス提供責任者が効率的に日々の業務を行えるようにする。

ア 部内ミーティングの時間短縮・質の向上

- ・毎日全体朝礼後に行っているミーティングにて各職員の日々の業務の進捗状況や委員会の報告などを行い、部内ミーティングでは制度改正や全体の業務に関わることのみを話し合い時間の短縮（2時間程度→1時間）を行う。

イ ご利用者の情報やヘルパーからの報告をタイムリーに記録することで担当以外の利用者についての問い合わせにもスムーズに対応できる環境にする。

ウ 保険請求業務を滞りなく行えるようにするため、日々の実績確認業務での注意点を共有する。

エ 土日の支援体制強化

- ・土曜日、日曜日の支援依頼についてはサービス提供責任者が積極的に支援に入ることや複数のヘルパーによる週替わりでの対応など柔軟な手配を行うことにより対応する。

② 感染症・災害時対応

感染症や自然災害が発生した場合でも、サービスを安定的・継続的に提供できる体制を作る。

- ・新型コロナウイルス等の感染症や台風・地震等の自然災害発生時における BCP（業務継続計画）の策定を行う。
- ・支援時に地震等の自然災害が起きた場合のヘルパー向けのマニュアルを作成

③ 介護保険の制度改正に向けて

厚生労働省などから提供される制度改正についての情報を収集し職員間での共有を行う。研修やセミナーに積極的に参加する。

④ 人材確保・人材育成

ヘルパーの知識・技術の向上、新たなヘルパー人材の確保に向けた取り組みを行う。

- ・「板橋区生活援助訪問サービス従事者研修」の定期的な開講に向け、地域への広報活動を行う。（社会福祉協議会やこども食堂など）
- ・キャリアや技術のあるヘルパーが育成担当としてヘルパーの指導にあたるなど、支援への同行やヘルパー研修の内容の考案など、サービス提供責任者の補助的な役割を行えるよう指導する。
- ・板橋区介護に関する入門的研修修了者の採用。（就労相談会への参加）
- ・ブログやインスタグラムなどの SNS を活用し、仕事の内容や魅力を発信する。
- ・デイサービスとの人材共有については、次回の制度改正にて予定されている通所介護の訪問サービスへの対応も見据え継続し行う。

⑤ ヘルパーの働きやすい環境の整備

ヘルパーに安心して長期的に働いてもらうために、ヘルパーの労働環境や必要な書類の整備を進める。

- ・ご利用者・家族からのハラスメント防止対策への取り組み（重要事項説明書や契約書の見直し）を行う。
- ・研修やラインワークスなどを通し、ヘルパーへ介護保険の制度改正や感染症対応等についての情報提供を行う。
- ・ヘルパーへのアンケートや意見交換会を行い、ヘルパーからサービス提供責任

者へ意見や提案をしやすい環境を作る。

(2) 職員研修

法人全体研修への参加のほか、ヘルパーの勤続年数や能力に応じた個別・小グループによる研修を行う。また、ヘルパーからの要望に対し、必要に応じて部内研修や情報提供を随時行い、ヘルパーの能力・技術の向上を図る。

(3) 職員の配置計画

管理者 : 1名 (特別養護老人ホーム施設長 兼務)
サービス提供責任者 : 4名 (介護福祉士4名、訪問介護員 兼務)
訪問介護員 : 34名

有資格者 (介護福祉士、実務者研修・介護職員基礎研修・初任者研修課程修了者、ホームヘルパー1級・2級) や生活援助従事者研修修了者を雇用し、体制整備を図る。

6. 居宅介護支援事業所

(1) 令和5年度計画策定にあたり

要介護状態になっても可能な限り自宅で自立した日常生活が送れるようにケアプランの作成やサービス調整を行う。また、地域包括ケアシステムを推進し、質の高いマネジメント、他職種連携に取り組む。

(2) 重点項目

①適正件数の維持と法人内での連携強化

- ・月平均35件を目標に新規ケースを受け入れていく。
- ・法人内での在宅サービス部門との連携を強化し、チーム支援で質の高いサービスを提供する。

②質の高いケアマネジメントの提供

- ・各職員が研修計画を作成し研修に参加する。
- ・適切なケアマネジメント手法の手引きを用いて定期的な勉強会を行いケアマネジメントの水準を一定以上に保つ。
- ・事業所は特定事業所加算(Ⅱ)を取得する。

③業務の効率化を目指して

- ・ウィズコロナ及びアフターコロナを見据え、ICTを積極的に活用する。
- ・勉強会の開催や参加、担当者会議など業務にもICT活用していく。
- ・ケアプランデータ連携システムの利用を開始し、業務の効率化を図れるように工夫していく。

④地域との連携強化

- ・地域の医療職やサービス事業所とより迅速な連携を必要とするケースにICTの活用を行う。
- ・地域のケアマネジャー勉強会に地域包括支援センターと共に参画していく。

⑤チームとして働く快適な職場環境づくり

- ・週1回の事業所内での会議の中で各担当ケースの留意事項を情報共有し、いつでもフォローし合える体制をつくる。
- ・毎朝のミーティングでの情報交換で常に相談ができる体制をつくる。

⑥感染症・災害発生時にも対応できる体制づくり

- ・感染症・災害時のBCPを策定し状況により見直しを行う。
- ・アセスメント実施時に災害発生時の支援の必要性を把握し、ケアプランに位置付けているサービスが提供できないときは、必要に応じて代替サービスの調整が行えるようにあらかじめ担当者会議などで検討を行う。
- ・担当者が不在でも他の職員が必要な情報を確認できるように、ケースファイルを統一する。
- ・法人内での感染症委員会、消防委員会に参加し、情報を共有し法人内で検討する。

7. 地域包括支援センター

(1) 令和5年度計画策定にあたり

年を重ねても安心して住み慣れたまちに住み続けるという、板橋区版A I P実現に向けて以下の点に関して強化する。

(2) A I P実現のために

①認知症施策

- ・アルツハイマーイベントの開催（認知症希望大使の講演など）。認知症の方への対応動画を継続して配信し、地域の対応力アップを行う。
- ・「認サポ通信」を年2回発行、認知症ステップアップ講座を行い、認知症サポーターへのフォローを行う。

②医療・介護の連携

- ・ICT活用による医療と介護の連携を計画し、そのバックアップを行う。
- ・地域の病院との意見交換を行う。
- ・地域の専門職へ「介護予防動画」や「栄養関連の情報発信」の協力を得て、地域と専門職をつなげる。

③介護予防

- ・老人クラブやサロン等小集団へ出向き、測定会やチェックシートを行い、事業対象者の把握に努める。該当者には短期集中教室の案内を行っていく。
- ・介護予防に関する講座も引き続き実施する。
- ・支え合い会議と連携し、地域のリハビリ事業者と作成した体操動画配信を継続する。
- ・令和5年5月には地域の介護予防活動紹介イベントを支え合い会議と共に企画している。
- ・地域での介護予防講座を地域住民の方と共に企画、実施する。

④高齢者の見守り

- ・地域の見守り強化と連携強化を図るため、地区民生児童委員・介護支援専門員等と引き続き連携していく。必要時は医療機関等の各関係機関や、地域においてご

協力頂ける方・商店等にも可能な限りご協力を仰ぎ、見守りを強化していく。

- ・見守りキーホルダーをイベントや地域の居場所、地域のグループに周知し、作成していく。
- ・今年度も地区民生児童委員との情報交換会を開催し、地域の状況や一人暮らし高齢者名簿登録者の状況把握を行い、必要に応じて、相談につなげる。

⑤日常生活支援体制整備事業（支え合い会議成増）

- ・支え合い会議成増の事務局を引き続き行う。
- ・会の活動周知のためマスコットキャラクター「なりりん」を活用した広報紙を年4回定期的に発行する。
- ・ホームページを更新し、会の周知を広げるとともに、ブログやSNS（LINEなど）を活用し情報発信を行う。
- ・医療マップの配布を行い、高齢者以外の世代への周知を目指す。
- ・介護予防や認知症施策と連携し、高齢者向けの学びを広げるイベントや小集団の集まりを企画、実施する。
- ・地域で居場所（スポット）づくりを行う。

⑥業務継続計画（BCP）

感染症に関する業務継続計画を完成させる。自然災害に関する業務継続計画は、今まで参加した研修参加や資料を基に作成をし、随時修正を加える。